



Fig. 1 金属製の置物のフォトフレーム



Fig. 4 丸い形のフォトフレーム



Fig. 2 時計のある現代アート作品風のフォトフレーム



Fig. 5 小型のアクリルフレームと円筒形のフォトフレーム



Fig. 3 2つのハート形のフォトフレーム



Fig. 6 写真収納ボックスを兼ねたフォトフレーム

## 口絵解説

## 「画像からくり」

## 第31回 フォトフレーム

## 31 Photo Frame

桑山哲郎

写真をプリントして生活の中で楽しむ際、フォトフレームは大変重要な役割を果たしている。その歴史を論じると、細密画を飾って楽しむ時代にまで遡ってしまうし、フォトフレーム論に正面から取り組むのはあまりにテーマとしては大きすぎる。今回は著者の気になるフォトフレームの一部分を取り上げ、ご紹介する。

Fig. 1をご観いただきたい。重い金属製の置物で、「不思議の国のアリス」を思わせる客車の場面になっている。窓の部分がフォトフレームになっているが、筆者が撮影した風景写真を配置している。座席が平行ではなく、手前が開いた配置になっている。「スカラ・レジア」（遠近を強調した舞台装置に用いられる）の手法となっている点も興味深い。この商品を企画した人が、使用者としてどんな人を想定し、どんな写真を飾ると想定したのかいろいろ想像させられる。商品名やメーカー名も不明の状態、中古品を扱う店の隅に置かれている状態で出会った。どんな経緯で作られたのかぜひ知りたいが、手掛かりが無いまま10年以上も部屋に飾っているのだが、一番気にかかるフォトフレームである。

同時期、同じ店で手に入れたのが、Fig. 2のフォトフレームである。現代アートのインスタレーション作品の趣があるのに惹かれて入手したが、こちらも関連情報は全く無い。奥の面の左上の「SPACE」という文字が見える部分がフォトフレームになっている。全体の枠の配置は逆遠近ではなく、出窓をモデルにしているのだと思われる。なおフォトフレームが組み合わされた商品では、時計が大変多く、鏡がこれに次ぐ。複合したフォトフレームの代表例として取り上げた。

Fig. 3は、ステレオ写真が入っているのを期待して購入したフォトフレームである。ここに見える2枚の写真は同一の図柄だが、ステレオ写真を収めるのにも適している。2つのハート形の写真を飾る趣向であるが、この形式で枠のデザイン・素材が異なるバリエーションは、店頭で多数見つけるこ

とができる。

フォトフレームでは、写真の形は長方形の他に正方形や円形さらにハート形までいろいろな形をしている。Fig. 4は、ドーナツの様に厚い枠の形のフォトフレームで、赤ちゃんの写真を飾ることを提案している。国内のフォトフレームのメーカー<sup>注1)</sup>の商品である。

以上、気になるフォトフレームを紹介したが、あまりに平均から外れすぎているのでバランスをとるため、Fig. 5の2点を紹介する。手前は「アクリルフレーム」と呼ばれる一般に呼ばれているフォトフレームで、少し厚い透明アクリル板をプリントの手前に配置する。写真の商品<sup>注2)</sup>では、アクリル板に埋め込まれた磁石と背後の鉄板の組合せで、プリントを押えるしかけになっている。また奥にあるのは2Lサイズのプリント用のフォトフレームで、円筒形のガラスで作られている。これらは奥の大手メーカーが手掛けているが一方、本体価格100円の商品でもいろいろなデザインのフォトフレームを入手することができる。

最後に、あまり見かけない思想のフォトフレームを取り上げる。Fig. 6は、カナダ Joshua Maxwell Studio 社から販売されている“Photo Storage Box”という商品である。木製の背板を持ち24枚のプリントを取めたポケットアルバム5冊が、重厚なニス塗の木製の箱に収められている。箱の手前の面と奥側の面両方にプリントが見え、フォトフレームとしての機能も果たすようになっている。輸入販売されているかどうか不明だが、ネットから注文すれば入手は可能である。

以上、フォトフレームのごく一部を紹介した。あまりにも調査数が少なく十分な論拠にはなり得ないが、「写真は生活文化の一部であり、フォトフレームは写真を楽しむ最前線に位置している」と主張しても良いだろうと思う。

注1：(株)キシマ (Kishima) の商品

注2：ナカバヤシ (株) の商品